

## 母親から見た子どもの1年間の発達

## —基礎的分析—

大野 和男 (児童学科・准教授)

Development of Young Children during One Year in Kindergarten  
from their Mother's Viewpoint: Basic Analysis

Kazuo Ohno

**Abstract**

This study focused on the development of preschool children during one year in kindergarten and their mothers' perception their development. A Sentence Completion Test (SCT) was written and administered to get various contents. The children's mothers responded three times at the end of each term for one year. The mothers' impressions of their children at home did not change during this time. However, their impression of their children at kindergarten changed according to the children's grades and terms.

These results suggest that mothers experience a different way of looking at their children and perceive their development when they go to kindergarten.

**Key words :** mother, child image, Sentence Completion Test (SCT)

キーワード：母親、子ども観、文章完成法 (SCT)

**問題**

育児において、親が子どもに対してどのようなイメージを持っているかは重要である。それは、親が日々子どもと関わる中で形成され、それがまた育児にも影響を及ぼすと思われるからである。澤田ら(1992)は、このような「母親の素朴な発達観」を「母親が日常的な育児実践の中で用いている、子供の成長・育ちについての信念、あるいは見方」と定義している。その特徴として、①母親の素朴な発達観は、何にもましてわが子の成長・発達に関する観念であり、わが子を育てていく過

程の中で母親が形成する観念であること、②子どもの成長をとらえるカテゴリーとして母親が用いるのは、「食べない」「寝ない」「泣く」「首が座る」「目が見える」といった、具体的な意味内容を持つカテゴリーであること、③母親が育児の過程で、様々の俗信を半信半疑ながらに実行したり、また子どもの問題の原因・理由に関して周囲の家族、近隣などの意見を取り入れながら、自分なりに納得する説明を作り出している点を挙げている。こういった母親の持つ子どもに対するイメージは、親というもののイメージと連動しており、両者の

姿がお互いのイメージの中に位置付いていることが検討されている。子どもが幼児期に入るまでは、母親にとって子どもの問題は自分自身の問題として母親の中に位置づけられ、様々な子どものイメージが矛盾なく連動するという（青木，2008）。

上記のことからすると、子どもに何かしらの転機が訪れるとき、母親の持つ子どもの「発達観」に変化が訪れることは想像に難しくない。子どもが幼稚園・保育園に通うようになるということは、母親・子どもの両者にとって大きな転機になると思われる。子どもにとって、幼稚園・保育園に通うことは、初めての移行体験を経験することである（石川，1998）。幼児期は、母子関係および家庭での人間関係から仲間集団や幼稚園・保育園の保育者へと、人間関係が飛躍的に広がる時期である。子どもが集団生活を体験し始めるこの時期は、新しい世界への期待と不安をもちあわせながら、生活の場や人間関係を広げ、信頼できる大人との関係を基盤にして同じくらいの年齢の友だちとともにさまざまな活動経験を積んでいく時期だといえる（多々内，2001；上垣内，2009）。

では、子どもが園生活を行うようになることによって、母親の持つ子どもに対する発達観にはどのような変化があるのだろうか。子どもは、幼稚園に通う前には、家庭中心の生活を送っている。母親は、子どもと生活のほとんどを共にしている。こういった子どもの生活圏の広がりには、母親にとっても、子どものイメージを広げることになるのではないだろうか。つまり、子どもが園生活を送るようになることは、子どもの見方に影響すると思われる。それまでは、24時間ほぼ常に子どもと一緒にいた母親にとって、離れる時間が増え、子どもが家庭以外の社会生活を送ることでさらなる成長を見せ、母親にも新たな側面を見せることがあるだろう。つまり、子どもは、家庭生活と園生活を送ることで発達し、さらに様々な姿を見せ、母親にもそれまでの子どもと違う姿が見えてくることになるのではないだろうか。

いずれにせよ、氏家（1996）によれば、母親になる過程で起こる行動＝思考＝感情システムの組織的变化は、乳児期に起こる変化と同じくらい劇

的であり、短い期間に起こることから、乳児と母親は同時進行的に（たがいに強く影響をおよぼしあいながら）発達していくことになるという。この考え方のもとにあるトランザクションモデルは、トランザクションによって引き起こされる変化が特殊な出来事や要因間の連鎖反応として理解される（Chess & Thomas, 1980, 1984）。

このことから考えると、子どもが移行期にある場合、新しい環境にうまく適応していくことに焦点化するだろう。例えば、年少児が幼稚園に通い始めるとき、その通い始めた1学期には、新しい環境である幼稚園でうまくやっていくことに焦点化されやすいと思われる。そして、そのことがクリアされると、母親の子どもに対する視点は、他の様々なことへ変化すると推測できる。年長児の場合、小学校への入学が近くなれば、そのことに焦点化されやすいだろう。これらはもちろん、子ども自身が発達していることと連動しているだろう。

以上のことから、子どもが幼稚園に通うようになるということは、子どもにとってと同様に、親にとっても重要な意味があるのではないかと思われる。また、親から見た子どもの姿は、子どもの客観的な評価というよりも、母親が子どもの何を気にしているかということの象徴でもあるだろう。Lazarus & Folkman（1992）は、ストレスに対する傷つきやすさにおよぼす影響を考察する中で、知覚レンズという比喩を用いている（氏家・高濱，1994）。このことからすると、子どもに対する考え方の枠組みは、その親子だからこそ生じるものであり、子育てをする上ではある意味母親の子どもに対する主観的な視点こそが重要だと思われる。

そこで、本研究では、幼稚園に通園している子どもがどのように発達していくのか、それを母親がどのようにとらえているのかについて検討する。特に、幼稚園と家庭で子どもの姿には違いがあるように母親はとらえているのか、ということに注目してみたい。園生活を送るにつれて、母親が自分の子どもに対して持つイメージの変化について、年少児から年長児それぞれの1年間を縦断的かつ

横断的に追う基礎的分析を行いたい。

## 方法

長野県松本市にあるM幼稚園に通う園児の保護者に、各学期末に回答を求めた。本分析では、1学期から3学期全てでデータのそろっているものを対象とした。すなわち、年少児20名（男児14名、女児6名）、年中児12名（男児5名、女児7名）、年長児18名（男児10名、女児8名）である。IDをクラス名と個人の組み合わせで決定した。つまり、年少児はb・h、年中児はy、年長児はf・sと数字の組み合わせである。数字部分が20以上は女児を、10以下は男児を示す。

母親がとらえる子どもの多面的な姿をとらえるために、文章完成法を援用して用いることとした。文章完成法(SCT)とは、投影法の一つであり、研究者の枠組みを固定することなく回答者の考えを引き出しやすい方法だと思われる。毎回10項目を実施したが、今回は4項目の分析を行った。それは、「家での子は、」「クラスの中で、うちの子は、」「前学期と比べて、今学期のうちの子は、」「次学期に向けて、うちの子に望むことは、」の4項目である。

記入者は全員母親であった。母親の平均年齢は、1学期時点で35.35歳であった。子どもの人数は平均2.04人であり、回答をお願いした子どもは第1子が47.8%、第2子が41.8%、第3子が9.0%、第4子が1.5%であった。

分析は、4項目別々に行い、表に示した。表では、それぞれの子どもに対する回答を学期ごとに並べて示した。回答を整理する際、その内容に明らかな誤字・脱字がある場合は修正を行ったが、必要最低限にとどめた。その学年・学期で最も多く述べられた内容をカウントし、表中では網掛けを施した。網掛けを施した回答以外で複数見られた回答には本文中でIDを示した。カウントする段階で、1つの項目の中に複数の内容がある場合、それぞれの内容にカウントした（例えば、「わがままな面もあるが、弟と遊んだり、私を手伝ってくれたり優しい。」(Table 1., b4)という回答は、「わがまま」「優しい」「きょうだい関係」「手伝い」

とそれぞれの記述があるものとした。)。しかし、「とにかく元気いっぱい、いたずらいっぱい」(Table 1., y24)というような回答は、類似した単語の重複ととらえ、1つの内容とした（この場合、「元気さ」）。

## 結果

### 家庭での様子

ここでは、「家での子は、」という語幹に対する回答を検討した(Table 1.)。年少児では、1学期において、きょうだい関係について触れているものが6名あった。次に多かったのがわがままに関する記述であり、5名で見られた(b4, h2, h5, h6, h24)。その他に、甘えん坊(b24, h2, h7)、よく話すというもの(b1, b3, h7)がそれぞれ3名、マイペース(b5, h10)が2名で述べられた。これらには、重複も見られた(例えば、b4)。2学期ではきょうだい関係に関するものが6名で見られた。わがままに関することも、5名と多い(b4, b8, b22, h2, h6)。これらを含め、いくつかの内容が重複しているものも多い(例えば、「わがままな要求が多く大変だが、お料理が好きでお手伝いしてくれる」(h6)など)。3学期では、きょうだい関係に関するものが5名あった。わがままというものも4つあった(b1, b8, b22, h7)。お手伝いをするというものも4名見られた(b5, h4, h22, h24)。おしゃべりというのが2つ述べられた(b3, h6)。

年中児について、1学期では複数述べられたのはきょうだい関係のみで6名であった。2学期でも最も多いのはきょうだい関係であるものの、甘えん坊(y1, y24)、お手伝い(y25, y30)というものも2名ずつ見られた。3学期でもきょうだい関係が5名と最も多く見られた。お手伝いについても3名(y21, y25, y30)、甘えん坊(y23, y24)について2名見られた。

年長児について、1学期では最も多いのは家庭で行っている遊び(過ごし方を含む)についてと、きょうだい関係で5名あった。他に複数の回答があったのは甘えん坊(f22, s5)とお手伝い(f1, f2, f22)であった。2学期で最も多いのは1学期

と同様、家庭で行っている遊びときょうだい関係でそれぞれ4名あった。甘えん坊というのが2名(f3, f6), お手伝いを含むものが2名見られた

(f5, s26)。3学期では、きょうだい関係についてが4名と最も多く、甘えん坊というのが3名で述べられた(f2, s5, s9)。

Table 1. 「家でのうちの子は、」についての回答

ID	1学期	2学期	3学期
b1	よくおしゃべりをする。	よくぐずる	ちょっとわがままになった
b3	よくしゃべり、よく歌っている	陽気、よくしゃべったり歌ったりしている。	おしゃべりです
b4	わがままな面もあるが、弟と遊んだり、私を手伝ってくれたり優しい。	わがまま	弟の面倒をよく見てくれて、優しい。
b5	マイペース。	マイペース。お手伝いをよくやってくれます。	夕飯のランチョンマットを選べたり、おはしを並べたり、そういう手伝いもできるようになりました。
b6	姉を負かしてしまうことが好きで、たまにけんかにはなるものの、姉と2人で仲よく遊びます。しかし、下の弟にはまだ仲良くしてあげられず、「あっち行け!!」などと言い、恐い顔でプリプリ。まだまだ自分も甘えたいのだろうと思いつつ、受け止める部分は受け止めてあげなきゃと感じる毎日です。	まだまだ自分が中心。お姉ちゃんよりも弟よりも一番自分が欲しい物を使い、貸してあげない。おいしい物も1人で多く食べる。姉と弟が泣くのがかわかない。	姉より弟より自分を見て見てという姿が伝わってきます。そんな時はスキップを多めにするよう心がけていますが、なかなか・・・。
b8	どんどん活発にいたずらになってきました。	幼稚園の反動なのか、甘えん坊でわがままです。	わがままで甘えん坊です。
b22	生き生きのびのび	やりたいほうだい・わがままほうだい	短気でいじっぱりでわがままになってきた事
b24	姉のマネばかりのあまえんぼ	姉のマネばかりの甘えん坊。ムードメーカー	お姉ちゃんのマネばかり
b26	とてもおもしろく大人を幸せにして姉を怒らせる	お姉ちゃんと毎日仲良くけんか	太陽
年少児	幼稚園と同じくらいやんちゃに遊びまわっています。	妹とけんかすることもあるが、よく面倒を見てくれるいいお兄ちゃん	—
h1	甘えん坊で、わがまま。	短気でわがまま、お手伝い大好き	行動がげげしい
h2	お手伝いをよくしてくれます。弟をよく泣かせます。	お手伝いをよくする。幼稚園のことをよくお話ししてくれる。	お手伝いと、弟の面倒をよく見てくれる。
h4	わがまま	ゲームをやりたいがる	ゲームに夢中
h5	わがまま。元気に外で遊ぶ。	わがままな要求が多く大変だが、お料理が好きでお手伝いしてくれる。	ずーっとおしゃべりしている。水遊びも。もしくはTVをよく見ている。最近見すぎなくらいです。
h6	甘えん坊。1人でたくさん話す。	甘えん坊。片づけない。	甘えん坊だったり、反抗期ばいです。
h7	ムードメーカー	ムードメーカー	ムードメカ、トラブルメーカー
h9	マイペース	テレビを見ている	テレビを見ている。
h10	生活リズムができてきた。	いいお姉ちゃんです	弟が何をしても怒らず、「泣くのが仕事なんだよ」とイライラしている私に説得する。
h21	言うことが聞けるようになった。	外に出た時より、静かに遊んでいます。(ままと、折り紙など)	字を書いたり、絵を描いたりお手伝いをしてくれます。
h22	よい時と悪い時の差がある。時々、ワガママになる。下の子の真似をする。	気がつく。下の子の面倒を見てくれて、頼んだことを進んでやってくれる。	お手伝いを良くしてくれて、たよりになる。
h24	前に比べて1人で遊んだり、考えて行動ができるようになりつつある。	ママっ子、家では甘えまくる。	妹が産まれ少しづつ落ち着いてきたかな。
y1	上の子とは仲良しだけどよくけんか。下の子にいじわるすることも・・・。	元気一杯で。兄弟げんかが多く泣くこともよくある。	とても元気。少し乱暴。しょっちゅう兄弟げんかをしている。
y2	お兄ちゃんらしい、騒がしい。	元気なお兄ちゃん	元気なお兄ちゃん、しっかり者
y7	自分なりに遊びを考え工夫して遊んでいます	好きな物に関してのこだわりが強い	—
y9	お姉ちゃんが大好きでずっとお姉ちゃんのあとをついて歩いている。	姉と対等にけんかするようになった	姉とけんかをするが増えた
y10	弟達と仲良く遊び、よくとび回っています。たまには「抱っこして〜」と甘えませんがそんな時はギュッとしてあげています。	下の子達の面倒をよくみてくれ、やさしいお姉ちゃん。真ん中の弟にいつもやられてしまうけど、そんなときは私が応援してあげます。“がまん”ばかりしていて少しかわいそうに見える時もあり、「がまんしなくてもいいんだ	弟たちの面倒をよく見てくれ、お手伝いも進んでやってくれるようになりました。
y21			
年中児			

		よ」と応援します。 姉と遊ぶことが好き。	甘えん坊
y 23	姉との人形遊びを楽しんでいる		甘えん坊
y 24	とにかく元気いっぱい、いたずらいっぱい	甘えん坊	甘えん坊
y 25	姉と仲良く遊んでいる。	食事の手伝いをしたがる	手伝いをしたがる
y 28	母のマネっこ。	おうち遊びが大好きで女の子らしく遊んでいる	お手伝いをたくさんしてくれる
y 29	自分が1番	お話し好き	のんびりや
y 30	1人でおしゃべり・・・ずーっと何か話をしています。	お調子者、元気におしゃべりしてお手伝いもいっぱいしてくれます。	1人でしゃべり続けています。幼稚園の様子など聞かせてくれます。
f 1	お手伝いはお願いしなければやらないが、心良く手伝ってくれる。	よく話をして、絵を描いたりとのんびりしてます	料理を手伝いたがります。
f 2	外でよく遊び、お手伝いもしてくれる子です。	お兄ちゃんのマネをしたり、何でも一緒にやりたがる	お兄ちゃんが大好きで、まねばかりする、甘えん坊です。
f 3	元気一杯いたずら大好き、いつでも体を動かしています。	末っ子なので甘えん坊。	色々なことに気がつく
f 5	上にはいじめられているが、下の子と仲良く遊んでいる。	少しだけお手伝いなど優しいところもある子です。	兄弟(姉と妹)と遊ぶこともあるが、2人の女子なので1人で遊ぶことが多い。
f 6	姉と仲良く遊び、優しいです	甘えん坊です	明るくほがらかで活発です
f 22	甘えん坊で、負けず嫌いですが、お手伝いもします。	制作ばかりしています。	おしゃべり、ひょうきん、意地っ張りである
f 23	おとなしく遊んでいる	いばっている(内弁慶的なところがある)	女王様のような。
f 24	お姉ちゃんらしく妹の面倒をよく見ている	しっかり者のお姉ちゃん。	しっかり者のお姉ちゃん
f 25	喜怒哀楽がわりとはっきりしている。	—	明るいけど大人しい
f 26	インドアでだらだらしている	わがまま	自分のことをやるようになってきた
s 1	幼稚園とは変わらないと思うが、甘えん坊である。	幼稚園とも変わらず、活発でよく動く	マイペースである。
s 5	甘えん坊です	マイペース	甘えん坊
s 6	元気です。お姉ちゃんとなら何でも頑張る	お姉ちゃんといっしょに勉強強さと言って字を書いている。	元気です。学校についての大丈夫ばかり聞く。「何は大丈夫かな～」と。
s 7	TVゲーム(ドンキーコング)など、すいすいやって(最初できなかったのに)びっくりする。(何回かやっていたら)	仮面ライダーごっこやDSなど1人で遊んでいることが多いかな。	仮面ライダーになりきって遊んだり、DSやWiiで遊ぶ。ゲームやビデオも見る。
s 9	ダンボールなどで工作をしています	ゲームをやったり絵を描いたりして遊んでいる	甘えん坊
s 21	わがまま	負けず嫌いで反抗期	わがまま
s 22	—	—	—
s 26	1才の弟のことをよくみてくれて助かっています	弟(2才)がいるのですが、ケンカしながらもお世話をしてくれたり、この頃は家の手伝いを少ししてくれています。	第2の母とお姉さんをしてます。

## 幼稚園での様子

「クラスの中で、うちの子は、」という語幹に対する回答を整理すると (Table 2), 年少1学期では、仲間関係について述べているものが6名と最も多かった。元気さについて述べているのが3名 (b5, h7, h22), 逆に「比較的小となしい男の子だと思います」(b8), 「落ち着きがある方だと思う」(h21) というものが複数存在した。明らかに否定的表現がなされているのは、「お友達との距離がつかめず、浮いている」(b1), 「落ち着きのない困ったちゃん」(h5), 「トラブルメーカー」(h9) という3名だった。疑問形のものも3名存

在した (b5, b26, h6)。2学期においては、仲間関係についてと元気さについてが5つずつ存在した。そして、「いい子でいようとしている」というのが3名 (b8, h2, h21), おとなしさについてが2つ存在した (b4, h6)。明らかな否定的表現は、「少し問題児かも」(b22), 「落ち着きがない」(h5), 「トラブルメーカー」(h9) という3つであった。3学期で最も多いのも多岐に渡るものの、仲間関係に関するものであった (7名)。他に、しっかりしていることが4名 (b8, b24, b26, h2), 元気さ (b5, h22) とまじめさ (b8, h21) が2名ずつ存在した。

年中児においては、1学期では、3つに分類できると思われた。最も多かったのは、仲間関係についてで5名あった。外向的-内向的性格に関してはそれぞれ4名と2名で述べられた(順に、y1・y23・y29・y30, y7・y10)。2学期においても、特に外向的性格に触れているものが5名あり、仲間関係に関するものが2名あった(y2, y21)。3学期では、仲間関係に関するものが4名あり、その中で外向的な性格とともに述べられているものが2名であった(y1, y2)。それも含めて元気さについては4名であった。おとなしさについて2名で述べられていた(y7, y10)。

年長児について見てみよう。1学期では元気さ・

明るさを述べたものが最も多く5名であった。仲間関係に関するものは、それぞれ内容は違うものの、3名あった(f24, s5, s26)。目立つこと、おとなしいことがそれぞれ2名で見られた(f1・s1, f5・s6)。2学期は、仲間関係に関するものが6名と最も多く、元気さについて述べてあるのが4名で述べられた(f2, f6, s6, s22)。おとなしさに関するもの(f5, s1, s7)が3つあった。3学期では、仲間関係に関するものが5名、おとなしさに関するものが4名(f5, f22, f25, s7)、元気さ(f2, f24, s9)が3名、体の大きさ(f23, s6)が2名で見られた。

Table 2. 「クラスの中で、うちの子は、」についての回答

ID	1学期	2学期	3学期
b1	お友達との距離がつかめず、浮いている。	—	おとなしい
b3	マイペース	マイペース	のんびりしている
b4	友だちの後を追いかけるタイプ。	自分の意見が言えなさそう・・・。	特定の子にっついて遊んでいる
b5	元気な方?!	元気一杯。おしゃべりが多すぎる?!	明るく元気。
b6	まだ決まった友達と遊ぶわけでもないが、いろんなお友達と遊べるようになってきたみたいで、「幼稚園が楽しい」と言うようになりました。	お友達と一緒に遊ぶことやお弁当を食べることが、とても楽しく思えるようになってきていて、以前よりはクラスの中で自分の場所を見つけられたのではないか。	お友達と遊ぶことが大好きだが、まだトラブル多く、自分に何かする友達に「もう一緒に遊ばない」と言ってしまうところがあり、まだまだうまくいかないことが多いのでは・・・。
b8	比較のおとなしい男の子だと思います。	先生の言うことをよく聴き、おっとり、良い子の子です。	真面目で、しっかり先生の言うことをきく子だと思います。
b22	普通だと思う。	少し問題児かも	3学期に入り少し友達関係がにがてになってきたところ
b24	誰とでも仲良くてできる	誰とでも仲良くてできる	しっかり者
b26	どんな風になっているのでしょうか?	小さいが力いっぱい楽しんでいる	小さいお母さん、又は先生
年少児 h1	月齢が早い割には「お兄さんの存在」という感じではなさそう。でも、お友達と仲良く遊べてるように思います。	生まれが早いので、少しはみんなをリードできるてる・・・かな!?	リーダー的存在ではないが誰とでも遊べる
h2	他の子の面倒を見ている。	いい子でいようとしている。(家の中と逆)	お兄ちゃん存在になろうと頑張る
h4	毎日楽しく遊んでいるようです。	お友達と遊ぶようになりました。	よく友達と制作をして遊んでいるようです。
h5	落ちつきのない困ったちゃん	落ち着きがない	要注意人物
h6	わからないが家とは別の人格なのでは。	おとなしく、ひかえめな方なのは。ガンコな面もある。	ひかえめな印象。な反面ケンカして感情を出すことも。
h7	やんちゃです。	自由奔放。	ひょうきんで優しいところもあるみたいです。
h9	トラブルメーカー	トラブルメーカー	—
h10	年が若いところ	特定の友人といつもいる、その子のまねをしている	親友といつも一緒
h21	落ちつきがある方だと思う	大人ぶっている?!	まじめ
h22	明るく元気いっぱい	とても元気	世話好き。元気。
h24	よくわからない(なかなか見る機会がないので・・・)	1人、何かをしている。(先生が本を読んでいる時)活発な方だと思う。	いろんなことに一生懸命で、みんなと仲良くやっています。
y1	お調子者	元気がよくお調子者かな。	元気が良くお調子者。1番になりたいけど、常に2番手位にいる。
y2	リーダーのような存在。	元気が良く、時にはリーダー的な存在になることも。	お調子者。強引。時にはリーダーになることもある?
y7	おとなしい子。内向的。	大勢の中ではひかえめ、おとなしい	おとなしい

	y 9	—	—	—
	y 10	おとなしい方	話を聞いて行動できる	男子の中ではおとなしい
年中児	y 21	女の子とブランコにのったり、ブリキアゴっこをしたりと楽しんでいるようです。男の子とも遊びたくしかたがない様子もありますが、男の遊びになかなか入れてもらえず、しょんぼりすることもあります。	お友達と遊ぶことが大好きで、お友達と一緒に経験した運動会や劇遊びは本当に大きなものとなった。幼稚園、クラスの先生、お友達が大好きです。	いろいろなお友達と遊ぶことができ、またその喜び・楽しさを知ることができた3学期ではないか。
	y 23	やんちゃ娘	1番にぎやかな子だと思う。	ムードメーカー（と先生に言って頂きました）、世話やき
	y 24	お友達もでき仲良くしているようです。	のびのびしている	自分の好きな遊びを見つけて遊んでいる
	y 25	男の子とよく遊んでいる。	潤滑剤	淡々と自分のペースでやっている
	y 28	背が高い。	体が大きい	背が高い
	y 29	おしゃべりでにぎやか	元気いっぱい	元気がいい
	y 30	小さいけれど元気いっぱいお友達と遊んでいます！！	小さいけれど元気いっぱいの頑張りやさんです！！	ちっちゃいけれど元気な子！！
	f 1	目立つほうだと思う。	目立つ方だと思う	目立つ存在。
	f 2	活発な男の子。	元気な子	元気がいい子です。
	f 3	普通の子ともだちだと思います。	自分を全部出し切れていない感じがする。	ちょっとお兄さんばい時もあり、そうでない時もあり・・・。
	f 5	どちらかというとおとなしめ	おとなしい方です。	おとなしい方である
	f 6	明るくひょうきん者です	元気にお友達と遊んでいる	みんなを楽しませる存在だと思います
	f 22	楽しく遊んでいます	？	ごく普通の子でやや内向的かな？と思う
年長児	f 23	大きい！	大きい。	でかい
	f 24	誰とでも仲良くできる	気がきく。しっかりした子	明るいしっかり者
	f 25	行動がのんびりしていると思います。	よくお友達に遊ぼうと誘ってもらう子	おとなしめな子
	f 26	楽しくやっているみたい	誰にでも話ができる	どうなかわからない
	s 1	いろんな面で目立ってしまうと思う。いい面も悪い面も。	内気で積極性に欠ける	個性的である
	s 5	ムードメーカー	人気者	まとめ役
	s 6	あまり声を出して自分の意見を言っているかなーと	元気	大きい。背が・・・
	s 7	—	おとなしい方だと思う。	おとなしい
	s 9	？	お友達と仲良く遊んでいると思います	元気にみんなと遊んでいる
	s 21	いばっている	いじわるである	わがまま
s 22	元気	元気がある	—	
s 26	お世話ばかりしてる？	同じ年でもお姉さんみたい（世話好きなので）	お姉さんの中のお姉さん	

### 前学期との比較

「前学期と比べて、今学期のうちの子は、」という語幹に対する回答において（Table 3.），年少児で1学期に最も多いのは、仲間関係に関する事で5名あった。その他、成長（b5, b22），ことばを覚えたこと（h5, h10），遊びに関する事（b4, h1, h21）が複数見られた。また、悪い方への変化が2名で述べられた（b1, h24）。2学期では、仲間関係に関するものと楽しく幼稚園に通っていることが最も多くそれぞれ4名あった。その他に、落ち着いたこと（h1, h21, h22）とできることが多くなったということ（b8, h2, h9）についてが3名、幼稚園でのことを話す・やってみせるといもの（b24, h24）とそれぞれ2名ずつあった。また、悪い方への変化が2名

存在した（h5, h6）。3学期では、仲間関係に関する事が5名と最も多かった。他に、文字、絵に関する事（b4・b26, b8・h10）がそれぞれ2名ずつであったが、悪い方への変化を含むものも見られた（b1, b22, h7）。

年中児では、1学期において、積極性や頑張ることを含むものが5名と最も多く、仲間関係に関するものが3名とそれに続く（y7, y23, y25）。2学期でも最も多いのは積極性や頑張ることを含むもので5名だった。仲間関係に関する事（y7, y10）、言葉使いが悪くなった（y28, y29）というものがそれぞれ2名あった。3学期でも多いのは、仲間関係に関するものであった。悪い方向への変化は1つも挙げられなかった。

年長児において、1学期では頑張ることが最も

多く、活発になったこと (s1, s22), 面倒見に関すること (f6, f23), しっかりしたこと (f26, s9), ものの理解 (f3, f25), 絵の上手さ (s21, s26) といったことが複数挙げられた。2学期で複数見られたのは、落ち着き (s21, s22), 頑張ること (f5, s5), 文字への興味 (f1, f6), そして悪い方

への変化 (f23, s7) などが述べられているが、変わっていないというものが3名で見られ、最も多かった。3学期で最も多いのはしっかりしたことと5名であった。その他、文字に関することも4名で見られた (f1, f2, f6, s7)。

Table 3. 「前学期と比べて、今学期のうちの子は、」についての回答

ID	1学期	2学期	3学期
b1	少し乱暴になった。	外で遊ぶようになった	ちょっとわがままになった
b3	風邪をあまりひくことなく通園できた	お友達と遊ぶようになった	お友達と関われるようになってきた
b4	テレビをあまり見なくなり、自分なりにいろいろな遊びをし、積極的になった。	幼稚園に行くことが楽しそう	数字、ひらがなに興味を持つようになった。
b5	様々な面で成長させてもらいました。早寝早起きになりました。	お友達と仲良く遊べるようになった。	行動も、気持ちの面でも成長しました。
b6	姉がいなくてダメだったのに、今では同じクラスのお友達と一緒に行動できるようになり、少しずつ成長しているのだなと思います。	ますます幼稚園が大好きになり、毎日がとても楽しい様子。2学期に4才になったこともあり、1つ大きくなったことが少し自信につながっている感じ。	2学期は発表会等、大勢の人を前にすると恥ずかしくて泣けてしまったり、私にくっついて離れられなかったが、3学期はバッチリ頑張って発表でき、成長がうかがえた。
b8	色々な事柄に対し自分でやってみようやろうとする姿勢が見られるようになりました。	自分でやりたいこと、できることがとても増えました。	絵や工作を自信を持ってできるようになりました。
b22	ものすごく成長した	成長したと思う。1学期はいろいろありました。	友達関係がうまくいかなくなってきたこと
b24	お友達の意識がめばえた	たくましくなった。幼稚園でのことをよく話すようになった。	しっかりしてきた反面、先生により甘えている
b26	園や先生、お友達に慣れた	幼稚園を楽しんでいる	成長しました。ひらがなが読めるようになった
年少児	母から離れ、のびのびと(たまには度が過ぎるくらい・・・)遊べるようになった。遊具を使った遊びがだいぶでできるようになった(前はあまり積極的に遊ぶ方ではなかった)。	落ち着いてきた/工作する力つき、想像力が豊かになった。	お友達と協力してひとつのことを成し遂げられるようになってきた
h2	自立心が強くなった。	できることが多くなって、自分を出せるようになった。	自分が出せるようになってきた。
h4	規則正しくなった。情緒が安定した。集団行動に慣れた。	柔軟になりました。	友だちとよくかかわるようになった。
h5	言葉が増えた。	乱暴になった	甘えん坊
h6	明るくなった。	クラスに慣れて友達をかむなどトラブルが増えた。	「～はどうして？」の質問がとても増えた。
h7	いろいろできるようになった。	年長さんや年中さんと関わるようになった。	甘えん坊だったり、反抗期っぽいです。
h9	お友達がたくさんできた	片付けができるようになった	より多くのお友達ができた
h10	言葉を覚えた	もっと楽しそう、言葉を覚えた	ミミズがもてるようになった。絵が上手になった。
h21	ドロ遊びや虫がつかめるようになった。	いい意味で落ち着いた	筋力が強くなった
h22	だいぶ落ち着きました。	少しですが、落ち着いていられるようになりました。	いけないこと・良いことがだんだん分かってきました。
h24	悪いことをする。話し方が変わった。語尾が雑になった。甘えん坊になった。	幼稚園で学んだことをやって見せてくれる。運動など。	いろんなことができるようになって、いろいろ頑張っている。
y1	自分のことを甘えずに1人でできるようになった。自由に遊んだり、泣いたり怒ったりしています。	いろいろ自分でできるようになった。	少しずつ園ではお兄ちゃんらしさが出てきたよう。
y2	人の前に出ることが少し恥ずかしいと思うようになってきた。	更に元気いっぱい色々ことに意欲的に取り組んだ。	お友達との関わりが広がり増えた(家に遊びに行ったり、来たり)
y7	集団生活に緊張感を持ちつつ、友達と遊ぶことを楽しみ、イキイキしてきた。	幼稚園にも慣れ、だいぶ友達とも打ち解けてきた	だんだん自分らしさがみんなの前でも出せるようになってきた
y9	精神的に強くなっている	色々なことに挑戦できるようになった。	挑戦できるようになってきた
y10	幼稚園で教えてもらった手遊びを家で自らすすんでたくさんやってくれるよ	きまったお友達と遊ぶようになった	幼稚園で泣くのが減った

年中児	y 21	うになった。 そんなに重い病気もせず、あまり休まずに通えました。	4月から年中組に入り、最初は少し遠慮がちのような気がしましたが、2学期は結構のびのびと大きな動きができていたように思います。	“合奏”がとても楽しかった様子で、音の重なりや友達とひとつになることの楽しさに夢中でした。更に友達との関わりも広くなり、とても楽しそうな3学期でした。
	y 23	小さいお友達との関わりが嬉しいようだ。	自分で本を読んだり、手紙を書く事に興味をもってきた。	年長さんになることを楽しみにしている
	y 24	慣れてきたので、積極的にになってきました。	積極的に物事に取り組むようになった	観察力がすごくて、幼稚園の様子がよくわかる程話をしてくれる
	y 25	友達が増えて楽しそう。	甘えん坊	自信がついてきた
	y 28	幼稚園を存分に楽しんでいる。	言葉使いが乱暴になった	お友達の輪に入り遊ぶようになった。
	y 29	自分の気持ちを少し伝えられるようになった	言葉遣いが悪くなった	何かを上手になるために頑張ることを学んだ
	y 30	言葉使いが落ちついている。運動あそび(渡り棒など)頑張って練習する姿・・・意欲を持って生活・活動できるようになった。	渡り棒やなわとびを一生懸命練習してできるように努力する姿が見られた。	絵が上手になったように思う。
年長児	f 1	字を書くことや数字に興味が出てきた。	1年生にもうすぐなるのだと思い、字の勉強をやる時がある。	1年生になることをだんだん感じてきて、ひらがなにより興味を持って、読んだり書いたりするようになった。
	f 2	—	あまり変わらない	ママのお手伝いをよくしてくれます。一生懸命ひらがなを覚えてます。
	f 3	年長になり、色々なことをさらに理解してきたと思います。	いろいろな面で成長が見られた。	まわりのお友達となじめてきた感じがします
	f 5	色々なことにやる気がでていること	色々なことにやる気が出てきていることです。	室内遊びに夢中で外に出て行くことがなかった
	f 6	年下の子の面倒も見られるようになった	ひらがなに興味を持つようになった	ひらがなをたくさん覚えました
	f 22	外で遊ぶようになりました。	負けず嫌いがぐんと出てきましたね。	カードゲームの流行により、ルールを覚えた
	f 23	年長ということで、面倒見が良くなったと思います	すごく怒りっぽくなった。	少ししっかりしてきたかな。(言うこと、やること共に)
	f 24	活発になった。	体力がついた(たくましくなった)	より活発になった
	f 25	怖がりになったと思います。物分りが良くなった。	よくピアノを弾くようになった。	記憶力がよくなった
	f 26	なんだか頼もしくなった	特に変化なし	学校をより意識しました
	s 1	より一層活発になった。	考えて行動できるようにはなっている	落ちついて行動できるようになった。
	s 5	色々なことを頑張っている	色々なことにチャレンジしている	心が成長した(自立心が出てきた)
	s 6	少しおとなしくなったかな、でも頑張りがやになった	元気。大きくなった。「ありがとう、ごめんね」ははっきりと言える。	1年生になることについて、少し不安が出てきてる
	s 7	自分と合う子と遊ぶことが多い。	口が悪いこと。	勉強(ひらがな、カタカナ)を覚えた。
	s 9	少しはしっかりしてきたかなと思います	とくに変わってないと思います	特に変わらない
	s 21	絵が上手になった	落ち着きが出てきた	少しみんなのことを考えられるようになった
s 22	活発になった	少し落ち着いたかも?	—	
s 26	ハサミや絵の描き方が上手になってきた	やることも上手になって、言うことも立派です	ますますお姉さんらしくなった	

### 次学期に向けての成長の願い

「次学期に向けて、うちの子に望むのは、」という語幹に対して (Table 4.), 年少児の1学期では、仲間関係に関することが11名で述べられ、圧倒的に多かった。その他に、おむつが外れること (h5, h7), 我慢すること (b4, b22), 挑戦すること (b3, h9) が2名ずつ述べられた。2学期においても通園することを含む仲間関係についてが最も多いものの、1学期より多様な内容が示された。他に複数の回答があったのは、元気さ (b22,

h9), 挑戦すること (b3, b4) であった。今のままでよいという回答も2名見られた (h2, h21)。3学期では、仲間関係に関することが最も多く10名だった。次に多かったのは挑戦することであった (b3, h1, h22)。

年中児では、1学期に最も多いのは挑戦することであり、その他、自分らしさを出すこと (y7, y24) が2名で述べられた。2学期で最も多いのは仲間関係を含む通園に関することであった。他に、挑戦といったことが複数述べられた (y9,

y29)。3学期では挑戦に関することが最も多く、その他に仲間関係について3名で挙げられた(y2, y25, y30)。

年長児では、1学期、思いやりに関することと仲良くすることを併せて仲間関係と考えると最も多かった。次に多かったのは挑戦することについてであった(f5, f24, f26)。2学期では、園生活に関することを含む仲間関係についてが最も多かつ

た。落ち着くこと(f1, f2)、気持ちに関すること(f3, f23, s1)、自分のことは自分ですること(f25, f26)が複数挙げられた。3学期では、卒園することがあるためか、やはり学校生活に関することが10名で述べられた。この中で友達ができることが4名で述べられた(f3, f22, f26, s6)。他に複数あったのは挑戦することであった(f24, s1)。

Table 4. 「来学期に向けて、うちの子に望むことは、」についての回答

ID	1学期	2学期	3学期	
b1	もっとお友達と仲良くなってほしい。	もっといっぱいお友達と遊んでほしい	もっとまわりの子に目を向けてほしい	
b3	初めてのことでもおもいきって行けたらいいなと思う	色んなことに挑戦してほしい	お友達からいっぱい刺激をうけていろいろなこと挑戦してほしい。	
b4	がまんできる子	新しいことにどんどんチャレンジをして、いろんなことを吸収してほしい	もうすこし素直に物事を聞いてほしい。	
b5	先生やお友達と仲良く、“幼稚園好き！”と、今のように通ってくれたら嬉しいです。	これまでのように“幼稚園が楽しい、大好き”と笑顔で登園してくれたらうれしいです。	今年のように、「先生、お友達、幼稚園が大好き」と笑顔で通ってくれたらうれしいし、安心です。	
b6	友達に「貸して」やごめんね「ありがとう」が言えるようになってくれたらいいなと思います。あと、「くさいっ！！」ということばを人に言わないようにしなくてはと思います。	少しずつでも相手のことを思いやる気持ちが芽生えるといいなと思います。	自分だけでなく、相手もいるんだ、自分が痛いと思うことは相手も痛いんだということが少しずつでもわかってくれるといいです。	
b8	自分の気持ちをきちんとお友達に伝えるようになってほしいということです。	自分のペースでのんびりゆったり成長して下さい。	あせらずゆっくり成長できることを1つでも増やしてほしいです。	
b22	がまんすることができるよう	かわらず元気でけがもなくすくすく育ってほしい。	友達と仲良く素直になってほしい。	
b24	もっとお友達と仲良くなってほしい。幼稚園のことを話してほしい	知らない人に対する拒否反応を改善してほしい。	お姉ちゃんが卒園しても、しっかり幼稚園に行ってほしい	
b26	お友達と楽しく過ごす日々	皆と仲良く、毎日楽しんで	年、状況に応じて成長して	
年少児	h1	変わらず元気に遊び回ってほしい。お食事の最後まで席を立たない。大きな声で挨拶。	毎日元気に幼稚園に通うこと。食事中に席を立たないこと。	新しいことにふみ出すこと
h2	今のままで十分。	今のままで十分	今のままでいい	
h4	お友だちとの関わりを増やしてほしい。(幼稚園で)弟に優しく接してほしい。(家で)	元気に楽しく通園すること	体を一杯動かして、友だちと元気に遊んでほしい。	
h5	おむつがはずれること	お友達に手を出したり、暴言を言ったりしないこと	指しゃぶり卒業	
h6	相手の気持ちを考えられるように。	リラックスして前向きな明るい子に。	明るく元気でいてほしい。私もそうしてきたい。	
h7	オムツがとれて、少し落ち着くこと。	片付けをちゃんとできる。	年少さんの面倒を見てお兄ちゃんになってほしいです。	
h9	すぐにあきらめずに何事にも挑戦してほしい	明るく元気であってほしい	変わらず元気で新しいクラスに早くなじんでほしい	
h10	他の子と上手に遊ぶ	たくさん動いてほしい	新しい所で馴染んでほしい	
h21	休まず元気に登園してほしい	このままでいいと思う	元気であいさつできるようになってほしい。	
h22	お友達と仲良く遊び、伸び伸びと。	お友達と仲良く集団生活を過ごしてほしいです。	たくさん経験して、興味があることいろいろなチャレンジしてほしいです。	
h24	集団生活ができて、他の子と仲よく遊べるように・・・他の子や下の子にもう少し思いやりがもてるようになったらうれしい。	乱暴な言葉づかいを直して、他の部分は今まで通り過ごしてほしい。いろんなことを吸収して頑張してほしい。	今のまま元気で頑張してほしい。お友達と仲良く楽しく過ごしてほしい。	
y1	元気で友達と仲良くしてくれること。	元気に幼稚園に通ってくれること。	元気で、もう少し落ち着いてほしい。まわりの意見等を聞き入れることも覚え、相手の気持ちもわかってあげられるようになってほしい。	
y2	もう少し落ち着いて、言葉づかいにも気を付けてほしいです。	精神的に安定して、お友達と仲良く元気に過ごしてほしいです。		

年中児	y7	もっと自分らしさを出して友達と遊んでほしい	2学期は欠席が多かったので、風邪をひかないで、元気に通園し、さらにお友達と仲良くなってほしい	年長さんとして残りの1年を楽しんでほしい。自分のやってみたいことに挑戦してほしい。
	y9	もう少し粘り強く集中してほしい	どんなことにも関心を持ち積極的に挑戦して行ってほしい	精神的にも強くなり何事にも積極的に取り組んでほしい
	y10	渡り棒や鉄棒など、苦手なことにも挑戦して行ってほしい	寒くなるが、外で元気に遊んでほしい	鉄道、なわとびなど、苦手なことにもチャレンジして行ってほしい
	y21	健康に気をつけ、大好きな幼稚園でいっぱい遊んでもらいたいです。	ますますのびのびと自分でいろいろ決めつけずにいろいろな目で見られるといいなと思います。	大人の言うことに忠実すぎなくてもいいから、自分を大切にひたまわりもふたまわりも大きくなってくれればな、と願います。
	y23	いろいろなことにチャレンジしてほしい	もっと素直になってほしい。	幼稚園最後の一年になるので楽しい思い出をたくさん作ってほしい。
	y24	自分をもっと出してほしい。	特に・・・。元気で過ごしてくれれば	-
	y25	渡り棒や鉄棒、頑張っしてほしい。	体を動かしていっぱい遊んでほしい	友達とのつながりを大切に
	y28	おはしが使えるようになったらいいかな。	元気にたくさん幼稚園に通ってほしい。(休みが多かった(2学期は))	特でない。健康で過ごしてほしい。
	y29	何にでも挑戦してほしい	いろいろなことに挑戦してほしい	何にでも挑戦してほしい
	y30	お友達、家族への思いやる気持ちを持っているといいなあ。	春には年長さんになるのでその心構えができるといいです。	家では2番目なので小さなお友達のお世話をしあげたり、仲良く遊んであげられたらいいと思います。
年長児	f1	物を貸したり、分けてあげたりと、相手に思いやりのある心をもっともってあげればと思います。	落ち着いて行動をし、人の話をよく聞くように。	人に対して思いやりの心が持てる子になってほしいです。
	f2	今はまだ名前しか書けないので、2学期は名字も書けるようになると思います。	もう少し落ち着いて、物事に取り組めるようになってほしい	自分で考える力を持ってほしい。
	f3	何でも好き嫌いせずに食べて体も強くなしてほしいです	心の大きな子になってほしい。よくも悪くもまれて強くも優しい思いやりのある子に育ててほしいと切に願っています。	お友達と仲良く学校生活を送ってほしい
	f5	苦手なことにも進んでやっていく気持ち	友達と仲良く遊んだり、仕事をしたり、いっぱい楽しんでほしいです。	自分のペースでよいので、学校になれて席におとなしく座ってほしいです。
	f6	今のまま健康で過ごしてほしいです	最後の幼稚園生活を楽しんでもらいたい	新しい環境でも今まで同様変わることなく楽しく生活してほしい
	f22	お友達との関わり合い	あいさつと返事でですね。	新しいお友達の中に入っても自分を出していけること
	f23	気に入らないとすぐ怒るので、もう少し気を長〜く持ってほしい	もう少し穏やかになってほしい	協調性を身につけてほしい
	f24	多くのことにチャレンジして自身をつけてほしい	失敗を恐れず何事にもチャレンジしてほしい。	失敗をおそれず何でもチャレンジしてほしい
	f25	特になし	自分のことは自分でできるように少しずつ取り組みたい。	落ち着きのある子になる
	f26	頑張っって練習するとできることを覚えてほしい	自分のことは自分でやってほしい	たくさん友人をつくってほしい
	s1	我慢できるようになってほしい。	思いやり、仲良くお友達と遊ぶ	なんでも最後まであきらめずやりとげてほしい。
	s5	相手(友達)の気持ちを考えて行動(言える)できるようになってほしい	お友達と沢山思い出をつくってほしい	もう少しメリハリが出てくれたら良い
	s6	あいさつする人の目を見てほしいかな・・・	けじめをつけることができる子になってほしい	お友だちを沢山つくること
	s7	幼稚園で楽しく仲良く遊んでほしい。	楽しくお友達と遊び、先生や幼稚園の思い出をたくさん作ってほしい。	1人でトイレに行ってもらいたい。ぜんそくで何日か休んでしまうことがあるので(幼稚園を)来年度は健康で元気に学校に行けたらと願います。
	s9	楽しく過ごしてほしい	残りの幼稚園生活を楽しんでほしい	新しく学校生活を楽しく過ごしてほしい
s21	友達と仲良くすること	優しい女の子	元気に学校へ通ってほしい	
s22	-	-	-	
s26	もう少し自分のことは頑張っってやってもらいたい	来年は小学校なので、もう少し1つのことに対して少しでも長く続けられるようになってもらいたいです。	小学生になるので、自分のいいたいことをはっきりと言えるようになってほしい	

## 全体的考察

本研究では、子どもが幼稚園に通う1年の間にどのような発達を示すのかについて、母親にはどう見えているのかということを中心にしようとした。全体的に多く見られたのは、明るい、元気といったことと、努力することといったことであった。また、このような個人的なことだけでなく、仲間関係についても多く述べられた。これらはSCTの語幹を問わず、様々な形で表現された。

今回分析で用いたSCT4項目のうち、家庭での様子を引き出そうとする「家での子は、」に関しては、他の項目の回答と傾向が異なった。即ち、学年・学期を問わず、あまり変化がなかった。どの学年においても、きょうだい関係が述べられることが多かった。また、甘えん坊・わがままといった内容も比較的多く挙げられた。

それに対して、幼稚園での様子は、仲間関係に関することや、明るさ・元気などが多く述べられた。仲間関係については、年少児では、「友達と仲良く遊ぶ」というような表現が多いが、年長児では、そのような表現ではなく、「お友だちの気持ちを受け入れることができるか」や「自分の気持ちを伝えられるか」というような仲間関係の深さや子どものパーソナリティを踏まえた仲間関係に関する記述が増加する。このような子どもの発達との関係が深い内容がいくつか見られた。

また、時間的変化という視点で見ると、前学期からの成長に関しては、学年によって傾向が異なった。年少児では、特に幼稚園に慣れるという意味で仲間関係に関するものが多く見られたが、年中児や年長児では、頑張ることが多く挙げられた。これに関連して、1年の間で異なる内容も存在した。逆に言えば、子どもの成長にとって、年少児では幼稚園に入学すること、年長児では小学校へ向かうことが非常に重要な意味があるように思われた。

さらに、年少の1学期に特有なのは、「幼稚園に慣れるか」ということを「友達と仲良く遊べる」という形で表現されたものである。「友達と仲良く遊べる」ということは、園生活を送るために中心的にとらえられていると思われた。これは、年

少児においては、1年間で徐々に減少したり、形を変えていく。年少児の3学期では、次年度を見越して、新しいクラスになじむことも登場する。それに対して、年中児では、今回の対象児において年中進級時にクラス替えが行われなかったため、このような内容はほとんど見られなかった。そして、年長児では、3学期では(2学期からも少々)、小学校入学を踏まえた内容が登場する。そのときの表現は、「元気に通ってほしい」や「お友だちをたくさん作ってほしい」といった少々曖昧な表現に変わる。このような1年間のサイクルの中で焦点化される内容も多く存在した。

以上のことから、母親の視点から見ると、家庭での子どもの姿にはそれほど変化がないということが言えそうである。家庭での様子は、特に学期という区切りがないということも変化が少ない理由になるのかもしれない。また、家庭よりも幼稚園の方が子どもとの距離をとることができることで、より客観的に子どもを見ることができる可能性もある。今回用いたSCTの語幹が幼稚園での様子を聞く項目で子どもの成長を引き出しやすくなっているという問題もあるかもしれないが、ずっと見ている家庭での姿はそれほど変化がないのに、幼稚園に通うことで、子どもの成長をより感じることができるのではないかと思われた。

このことは、氏家・高濱(1994)が指摘した知覚レンズを用いて説明できるかもしれない。入園時には、幼稚園に慣れることは当然であるし、子どもにとっても、親にとっても最も重要なことであろう。だからこそ、そのことに焦点化されるのである。

ところで、今回の研究で母親によって挙げられた子どもの姿は、子どもの客観的な姿とは別の次元である可能性がある。あくまでも母親の目から見た子どもの姿である。実際に、千原ら(1996)は、保育者と保護者の子育て観には異なる所があることを指摘している。大野(2009)は、1学期の意味が学年によって異なることを示しているし、クラスに「なじむ」ということが新しいクラスが作られる場合には重要だと指摘している(大野, 2010)。幼稚園に通う子どもにとって、幼稚園の

存在は大きいものであることは疑いがない。しかし、母親が実際に見ているのは幼稚園での子どもの姿ではなく、家庭での子どもの姿が中心である。ただ通園前を比べると、離れている時間が多くなったことで、母親が子どもに対して新たな視点を加えることが可能になると思われる。母親が見ていない時間に子どもと接している保育者からの視点を考慮し、親と保育者の同じ子どもについてのとらえ方が異なるかどうかを検討することも重要であろう。

このようなことからすると、母親が見ている子どもの姿はある意味主観的であり、それが育児の方向性にも関係し、重要な意味を持つということは言えると思われる。育児にとって重要なのは、子どものどのような所に注目しているかということであろう。前述の知覚レンズが保育者と母親で異なるかもしれない。気になるからこそ、そこに対して働きかけるのであろうし、他者から見て、例えば保育者が問題だと思っても、母親がそのように感じなければ子どもに対する態度には変化が生まれえない。そして、問題が解決しない場合には、その思いをずっと持ち続けるだろうし、同じことでも、時期によって肯定的になったり、否定的になるだろう。今回回答していただいた内容は、母親から見た子どもの姿であり、母親の子どもに対しての思いだと思われる。思いがあれば、そのことに対して叱ったりするだろう。こう考えると、現実に子どもの姿がどうかということより（もちろん重要ではあるが）、母親にどう見えるのかということが重要なことのように思うのである。本論文において、そのことを全て明らかにできたわけではない。そのためには、回答内容を総合的にとらえる必要があるだろう。今回の検討では、SCTの語幹ごと、つまり、項目ごとの分析にとどまっているため、子どもの姿としてとらえにくかったかもしれない。語幹にこだわらない分析方法も行っていきたい。

## 謝辞

M幼稚園の先生方、そして保護者の皆様には大変お世話になりました。心から感謝いたします。

## 引用文献

- 青木弥生 2008 「第14章 子どもイメージ, 子育てイメージの役割」岡本依子・菅野幸恵(編)『親と子の発達心理学: 縦断研究法のエッセンス』新曜社.
- Chess, S. & Thomass, A. 1980 *The dynamics of psychological development.* Brunner/Mazel Publishers. 林雅次(監訳) 1981 『子供の気質と心理的発達』星和書店.
- Chess, S. & Thomass, A. 1984 *Origins and evolution of behavior disorders from infancy to early adult life.* Harvard University Press.
- 千原美重子・棚橋治美・鈴木えり子 1996 保育者および保護者の子育て観に関する調査(I): 調査の概要と子育てのめざすもの 日本教育心理学会総会発表論文集38, 109.
- 石川悦子 1998 「第1章 家庭から幼稚園, 保育園へ: 3歳児の移行体験と危機」会沢勲・石川悦子・小島明子(編著)『移行期の心理学: ことと社会のライフイベント』ブレーン出版.
- 上垣内伸子 2009 「第5章 発達の理解と教育課程の編成」小田豊・神長美津子(編著)『教育課程総論』北大路書房.
- Lazarus, R.S. & Folkman, S. 1984 *Stress, appraisal, and coping.* N.Y.: Springer Publishing Company. 本明寛・春木豊・織田正美(監訳) 1991 『ストレスの心理学: 認知的評価と対処の研究』実務教育出版.
- 大野和男 2009 保育者の視点から見た子どもにとっての1学期 松本短期大学紀要, 18, 3-21.
- 大野和男 2010 入園からクラス替えに至る幼稚園児の様子: 保育者の視点から見たクラスに「なじむ」ことと子どもの発達 松本短期大学紀要, 19, 3-14.
- 澤田英三・鹿島達哉・南博文 1992 母親の素朴な発達観の特徴と構造について: 事例的研究 広島大学教育学部紀要第1部, 41, 89-98.
- 多々内三恵子 2001 「第7章 3歳児の園生活」森上史朗・大豆生田啓友(編)『保育内容総論』ミネルヴァ書房.
- 氏家達夫 1996 『親になるプロセス』金子書房.

**要旨**

幼稚園に通う子どもが1年間でどのように発達し、それを母親がどのようにとらえているのかについて検討した。文章完成法（SCT）を援用し、各学期末に、年3回回答を得た。

結果として、家庭での子どものイメージはあまり変化がなく、学年間でもそれほど大きな違いがなかった。それに対して、幼稚園での子どもの姿は、学年によっても、学期によっても変化していた。これは、前学期との比較や次学期への願いでも同様であった。

これらのことから、母親にとって、子どもが幼稚園生活を送ることで違った姿を見せるようになり、成長を感じ、そのことで母親の今までの子どもに対する視点に広がりを持たせることが推測された。

(2010年10月4日受稿)